
桜の散る頃に

カオス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜の散る頃に

【Nコード】

N6574K

【作者名】

カオス

【あらすじ】

桜の舞い散る季節に俺の前から姿を消した最愛の彼女。彼女に会える時をひたすら待ちわずか一時間を楽しむ。そんな淡い恋心を八百字に纏め上げた作品です。

桜の舞い散るこの季節にある一人の女性が静かにこの世を去った。
俺が溺愛していた人。

桜が大好きで子供が出来たら桜と名付けると言い切るほど好きだった。

だけど、子供は一人も出来る事も無くこの世から姿を消していく。
彼女からの最後のお願いを聞いたのは火葬場で待っている時の事だった。

「こんな時に言うのも辛いとは思うけど、どうかこの子の骨を桜の舞い散る所で散骨して欲しいと言っていたの。ほんの一つまみでも良いから出来ないかしら」悲しみの中で懸命に告げてくれた彼女の両親は涙を流しながら話してくれる。

俺はほんの少しの遺骨を持ち帰っていく。

散骨用に粉々に砕かれた最愛の彼女を連れて夜中こっそりと桜の舞い散る場所で散骨すると不思議な事が起こったのだ。

俺の周りが朧おぼろけ気に光り、突如として姿を現した彼女は二度と会えないだろうと思った人。

一年に一度だけ。それも限られた一時間だけの時間しか会えない彼女とわずかな言葉を共有していく。

そんな生活ももう十年続いたある日の事。

だんだん彼女の姿が薄くなっている。

年数を経つにつれて別れが近付いているのだろう。

後何回彼女との短い時間を共有できるのか。

聞くのが怖い。

聞かずにいれば別れを惜しむのは最後だけでいいはずなのだ。

聞いてしまえばその時まで俺は別れたくないと引きずりながら彼女に再び会える一年を過ごしてしまうだろう。

「そろそろ時間だからまた一年後ね」人の往来するベンチで俺と彼

女は付き合いたてのカップルみたいにお互い頬を染める。

暖かい光りに包まれていた場所は光りを失い街頭の光りに照らされて桜が舞い散っていた。

桜のようにほんのひと時花を咲かせ俺を満開に咲いてる桜と同じように笑顔にさせてくれる存在は来年まで会えない。

もう涙は流せない。

俺はベンチを立ち上がり往来する人ごみの中へと消えていった。

（後書き）

大変短い文章でしたが読んでくださり心より感謝申し上げます。
わずか八百字で詰め込んだ文章なのでそこまで出来上がっていない
と思いますがお楽しみくださったら私としては至上の極みです。
久しぶりの全年齢作品なので緊張してますが今後ともよろしく願
いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6574k/>

桜の散る頃に

2010年10月20日14時10分発行